



もくじ

こいびと——表紙の生産者をご紹介
安佐北区安佐町小河内
黒川 大助さん 2

特集
JA広島市
レディースクラブ
学ぼう・伝えよう・地域とともに!! 4

●JAトピックス 6

まるごとJA [第12回]
共済事業①ひとの保障 8

●変わるんJA [第2回] 9

農の現場から⑩
東区・府中町 10

松田麗子の
おなかいっぱい、幸せいっぱい
エダマメ 12

健やか生活相談室
知っていますか?
ロコモティブシンドローム14

やさしい菜園プラン
モロヘイヤ 15

●HAPPY SMILE 16

●おしゃべり広場 16

●クロスワードパズル 17

●JA広島市 情報BOX 18

●ひろしまる倶楽部 & こいぶみ
農家今昔物語 20

本誌タイトル「こいぶみ」とは、JA広島市の気持ちをまっすぐに、組合員をはじめ多くの人に届けるため、広報誌を手紙に見立てたところから命名いたしました。「こいぶみ」の「こい」には、人や地域を愛する「恋」のほか、多くの人に呼んでもらえる「来い」、情報が「濃い」など、さまざまな意味を込め表現しています。



サラリーマンから農業の道へ
ずっと農業を続けていきたい。

こいびと——表紙の生産者をご紹介

黒川大助さん

(31歳) 安佐北区 安佐町小河内

農家との出会いをきっかけに、サラリーマンから農業に転職した黒川さん。現在は、安佐北区安佐町小河内で、ビニールハウス13棟でコマツナなど葉物野菜を栽培する農園を経営している。転職のきっかけや今後への思いを伺った。

誇りを持って働く
農家に憧れ農業の道へ

黒川さんの農園の名前は「とたべる農園」。家族でも恋人でも、誰かと一緒に野菜を食べてほしいとの思いから、農園を立ち上げる時に自らその名を付けた。「野菜が、人と人との間をつないでくれたらうれしいです。よく、とらべる」と間違われるので、もっと浸透してほしいですね(笑)」

大学院修了後、種苗会社に就職しサラリーマンとして群馬県で働いていた黒川さん。仕事で農家を巡るうちに、農家のみなさんの熱意に心動かされた。「とにかく生き生きと楽しそうに仕事をされていました。そして、自分の仕事に自信を持たれている。私もそんな風に働いてみたい」と思い、農業の道を志しました。

故郷である広島県で「ひろしま活力農業」経営者育成事業で新規就



いつも手伝ってもらっているパートのみなさんと。「一緒に働いていただける方をお待ちしています」



「オススメの食べ方はナムル。簡単にできるのでぜひ試してみてください」と黒川さん。



自ら作り上げた回転テーブルには、袋詰めを待つコマツナが並ぶ。



My History
マイ・ヒストリー

- 2011年 大学院修了後種苗会社に就職。
- 2015年 仕事を辞め、農業研修を始める。
- 2016年 「とたべる農園」を開く。

2016年に念願の農園をオープン。主力のコマツナとホウレンソウに加え、サツマイモの栽培も始めた。「サツマイモは、自ら『とれたて元気市』で試食販売を行っています。消費者の方と直接ふれ合える貴重な機

消費者との関わりを
これからも大切に

ただ、就農支援事業で身に付けた知識、経験、広がった人の輪が黒川さんの基礎となった。「成功している先輩の農園を見学できたことが役に立ちました。農作業のこと、経営のことはもちろん、袋詰め作業に使用するテーブルはどんなものがよいかといったことまで、何を考え、何を選び、どう行動していったらよいかを学ぶことができました。今は、そうした先輩たちに早く追いつきたいという気持ちでいっぱいです」



好きな言葉
セレンデピティ
思いがけない偶然を発見するということの意味だが、そのための日頃の準備が大切だと思っている。

自らを悩んでしまうタイプと語る黒川さん。先輩からもらった「まずは動いてみる」という言葉を胸に、もつと作付面積を増やしたい、もつと手伝って頂ける方を増やしたい、違った野菜にも挑戦したいと、歩みを止めることはない。農園名に込めた想いが伝わっていけば、黒川さんが作った野菜を大切な人「とたべる」人が、もつと増えていくに違いない。

会。おいしいといってもらえると励みになります。これからも消費者との関わりは大事にしていきたいです」

農業の道に踏み出して約2年。自然豊かな小河内の地で働くことに喜びを感じている。「晩春の新緑の頃が好きですね。冬の雪の多さには驚きました。近くには就農支援事業の先輩もいるので心強く感じています」